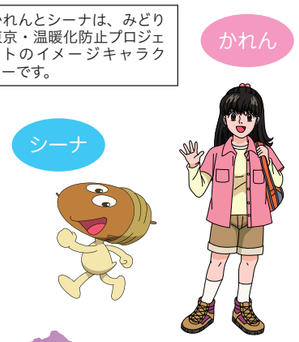
オール東京62市区町村共同事業

みどり東京・温暖化防止プロジェクト

市町村の取組紹介

本プロジェクトでは、自然環境保護及び地球温暖化防止についての普及・啓発を目的とする市区町村の自主事業に対する助成を行っています。本助成を活用して多摩・島しょ地域の自治体で実施された取組を紹介します。

かれんとシーナは、みどり東京・温暖化防止プロジェクトのイメージキャラクターです。



① 稲城市　グリーンカーテンプロジェクト

稲城市では、グリーンカーテンによる地球温暖化防止に向けた啓発活動として、市内の各小中学校で「グリーンカーテンプロジェクト」に取り組んでいます。毎年５月には、ゴーヤとアサガオの種を全校に配布し、校舎だけではなく、プール脇のフェンスや飼育動物小屋など、各校において趣向を凝らしたグリーンカーテン作りに取り組んでいます。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今年度は中止となりましたが、例年、中学校の生徒会を中心に市内の駅頭でゴーヤの種の配布も行っています。

【問合せ先】稲城市 緑と環境課　TEL 042-378-2111

② 羽村市　リユース食器貸出し事業

羽村市では、市内の団体、事業者、個人の方が行うイベントなどで利用可能な、リユース食器の貸出しを行っています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い各種イベントが中止となり、貸出しはありませんでしたが、今後もリユース食器の利用を促進し、廃棄物となる使い捨て容器を削減することで、低炭素な事業や生活を推進していきます。使用後の食器は洗浄不要で返却するだけなので、利用者からは「ゴミも出ないし、エコで便利！」という声をいただいています。

また、リユース食器の原料の低炭素化にもこだわった、バイオマスプラスティック製の食器も取り揃えています。

【問合せ先】羽村市 環境保全課　TEL 042-555-1111

③ 青ヶ島村　池之沢地区森林保全事業

池之沢地区は、二重カルデラの中にあることから、地熱の影響で一年中暖かく、また、外輪山で囲われているため風も穏やかで、主に特産品である「青酎」の原料となるさつまいも畑や、切葉など地場産業が行われています。また、池之沢地区の真ん中にある内輪山（丸山）は、元々の防風林と椿の木を交互に植樹したことによる独特な景観が観光スポットになっています。2019年度から、池之沢地区全体の森林整備を実施しており、事業を継続することで環境と観光スポットの保全に努めていきます。

【問合せ先】青ヶ島村 総務課　TEL 04996-9-0111

調査研究報告書の活用に関するアンケート結果報告

当調査会は、毎年度、複数の調査研究報告書を作成し、多摩・島しょ地域市町村等に配布するとともに、ホームページ上（https://www.tama-100.or.jp）でも広く公開しています。

各自治体の現場において、どのように報告書をご活用いただいているのか把握するため、４月から５月にかけて多摩・島しょ地域の 39 市町村を対象としたアンケートを実施しました。

多くの市町村にご活用いただいています

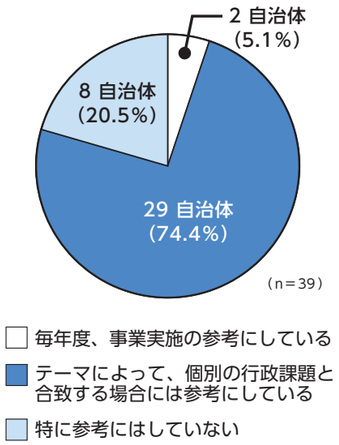
アンケートの結果、31 自治体（合計 79.5％）から「毎年度、事業の参考にしている」「調査研究のテーマが市町村の行政課題に合致する場合には参考にしている。」とご回答をいただきました。（図参照）

また、2020年度の市町村事業の実施に当たっては、当調査会が過年度取りまとめた『ペット問題の解決がもたらす住民の生活環境向上に関する調査研究報告書』を参考に課題解決に取り組んだという回答をはじめ、他の調査研究結果も事業実施に当たっての参考として活用しているとの回答をいただいています。

各調査研究では、市町村が事業に取り組まれる際に参考にしていただけるよう、多摩・島しょ地域の自治体にアンケートを行い、地域の実態について明らかにするとともに、取組のポイントとなる点を先進自治体や有識者から伺い、取組の方向性をお示しするなど、多くの情報を掲載しています。

調査研究内容は、過年度のものも含めて当調査会ホームページに掲載しています。是非、ご参照いただき、各市町村の取組にご活用いただきたいと存じます。当調査会は、引き続き調査研究内容の充実に努めてまいります。

図　調査結果の活用状況



編集後記

○　霜月、11月、今年もあと2カ月となりました。秋も深まり、冬の訪れを告げる立冬は11月7日（日）になります。山の木々は色づき、厳しい冬が来る前のつかの間の穏やかな季節です。

○　穏やかな気候とは裏腹に、熱き戦いとなった衆議院議員選挙が先月末に無事終了しました。これから国政を担う議員の皆さんにはコロナウイルス対策や落ち込んだ経済の回復、複雑化する外交など山積する課題への対処に向け、議論を尽くし、より良い日本社会の構築に努めていただきたいと思います。

○　さて、コロナ感染症については、国、自治体、医療界など各方面の努力が実り、ワクチンの接種が進んだ結果、希望する人々への接種はほぼ完了する運びとなりました。

春から夏場にかけて長く続いた感染拡大も下火となり、ようやく先月から緊急事態宣言が解除され小康状態を保っています。

○　しかし、ワクチンを接種したから、感染者数が少なくなっているからと安心するのは現時点では少し早いかもしれません。

・ワクチンの効果はあくまで「感染しにくい」、「重症化しにくい」というものです。

・周りにウイルスが存在し、防御が十分でなければウイルスは体内に入ってきます。

・ウイルスと戦う体内の抗体が十分でない場合、運が悪ければ発症し、たとえ無症状であっても家族や職場など周りの人々にうつしてしまう可能性があります。

・アレルギーなど様々な理由でワクチンを接種していない人々も必ず一定数いるということを忘れてはなりません。

つまり、ワクチン接種した人であっても、あと少しの期間は注意が必要です。

○　感染力の強い変異株にも効く治療薬の開発が進み、治療方法が確立し、感染増加にも柔軟に対応できる万全な医療体制が整うまでの間は、マスクの着用、手洗い・うがいの励行、密の回避などの身を守る基本的な感染対策を続け、油断のない自己防御に徹する心構えが必要です。

○　有識者は「コロナウイルスはどうやら夏と冬に流行が拡大するという季節性があり、世界中で概ね同じ時期に北半球でも南半球でも増加、減少を繰り返している。冬場にも流行のピークが現われる傾向がある。」と論じています。

この予測が正しければ、日本でも昨年同様にこの冬場にも、第６波の感染拡大が懸念されることになります。長らく続いた緊急事態宣言が明けて、気ぜわしさや気のゆるみがでる年の瀬を間近に控えています。くれぐれも油断なくお過ごしください。

（M.N）